

安倍政権の「代替わり」政治利用に反対する

19.06.09 R

- ・「代替わり」を考える場合も、どの立場から見るかによって変わってくる。明仁か、徳仁か、安倍首相か、国民か。ここでは、安倍の立場から考える。
- ・安倍が今考えていることは、この「代替わり」をいかに憲法改悪につなげるかということであり、そのための参院選またはダブル選の勝利。どのように演出し、大騒ぎすれば勝利につなげられるか、ということを考え抜いているに違いない。
- ・「代替わり」の利用は、実際に大きな威力を発揮したと言える。これを安倍の思惑通り次につなげさせるのが大切だ。そのために、何が行われたのか、安倍がどのように利用したのか、確認しておきたい。

(1) 改元と退位・即位の、安倍による政治利用

○退位・即位の一連の儀式

- ・安倍は、退位・即位の一連の儀式に参列し、大々的に報道させた。「退位礼正殿の儀」「即位後朝見の儀」では「国民の代表」として挨拶し、明仁と徳仁を称え、「誇りある日本の輝かしい未来を創り上げていく」と決意を表明した。
- ・マスコミは、大はしゃぎで代替わりを伝えた。テレビは、30日朝から「令和まであと〇時間〇分〇秒」とカウントダウンを表示し続けた。「代替わり」前後の7日間で、天皇や改元をめぐるテレビ番組の特集が170時間を超えた。
- ・その結果、多くの国民の関心を「代替わり」に向けさせることに成功した。即位を祝う一般参賀に14万人が集まるなどして、歓呼の声で迎えた。

○元号決定過程に深く介入

- ・「令和」という元号は、一度出された原案に対し、安倍の指示によって、学者に追加で考案を求めたもの。出典が、中国の古典ではなく「国書」であることにこだわった。万葉集について「万葉仮名以外から」とも注文した。
- ・元号の発表3日前の3/29に、皇太子に元号の原案を伝えた。4/1当日は、元号を改める政令を閣議決定した臨時閣議の後、天皇と皇太子に伝え、それを終えてから記者会見で発表した。国民に発表するより前に、まず天皇と皇太子に新元号を伝える。まるで「裁可」を得るかのよう。その一方、国民に対しては「官邸内の植木までチェックする」など滑稽なまでの秘密主義。
- ・元号発表後、「平成」発表時には実施していない首相会見をわざわざ開いた。その後テレビ番組をはしごしてアピール。「万葉集には、天皇や皇族だけでなく幅広い階層の歌が収められている」と強調し、「1億総活躍」に結びつけた。

○「内奏」の公開

- ・5/14 に、安倍は、天皇に国内外の諸情勢について説明する「内奏」を行い、その際の写真と映像を宮内庁に公開させた。公開自体が異例で、即日公開は初めて。

○トランプ訪日

- ・5/25、トランプの歓心を買うため、「令和初」の国賓として来日させ、新天皇と会見させた。「代替わり」が「スーパーボウルより 100 倍大事な行事」だとして、目立ちたがりのトランプの興味を引いた。「日米同盟強化」をうたい上げることに、天皇を最大限利用した。

○国会封じ

- ・衆院予算委員会が約 100 日も開かれないなどの異常事態を、「代替わり」の大騒ぎによって覆い隠している。
- ・衆議院は、共産党を含む全会一致で、即位の賀詞を可決。「祝賀」に巻き込むことによって、野党の対決姿勢を後退させる成功。

○恩赦を計画

- ・秋に恩赦を検討。天皇「慶事」による恩赦は、それ自体が主権在民に反する憲法違反。
- ・選挙違反者の公民権回復。選挙目当て。

○安倍内閣支持率上昇

- ・新元号発表直後の世論調査では、元号に好感が 74 %、内閣支持率が 9.5 ポイント増の 53 %へと急上昇（共同通信）。
- ・5 月も上昇続く。NHK では支持 48 % (1 ↑) 不支持 32 % (3 ↓)。時事通信では支持 44.7 % (1.7 ↑)、不支持 31.1 % (3.2 ↓)。

○「新たな時代」の演出

- ・「代替わり」に合わせて新札の発行予定を公表。
- ・自民党は、改元に合わせて 5/1 から、「新しい政治の幕開けを宣言する」として「#自民党 2019」プロジェクトという広報戦略を打ち出した。ターゲットを若者に絞り支持層をさらに拡大することを狙う。
- ・これら全体によって、安倍政権の軍国主義、反動化の政策推進に勢いをつける。その先に狙うのは、「『新たな時代』にふさわしい新憲法」。

（2）主権在民・政教分離に真っ向から反する、「代替わり」儀式

○4/30・5/1 の退位・即位の儀式

- ・4/30 「退位礼正殿の儀」には、三権の長や閣僚、地方代表ら約 340 人が参列し、頭を垂

れた。

- ・5/1 「剣璽等承継の儀」にも、三権の長や閣僚ら 26 人が参列。
- ・5/1 「即位後朝見の儀」にも、三権の長ら約 300 人が参列。
- ・「退位礼正殿の儀」、「即位後朝見の儀」では、天皇が国民に挨拶するのではなく、「国民の代表」である安倍が、天皇に対してへりくだり挨拶した。象徴でしかない天皇が主権者である国民の上に立つ。主権者としての意識を眠り込ませる。
- ・「退位礼正殿の儀」と「剣璽等承継の儀」には、「三種の神器」のうち剣と璽（まが玉）が使われた。明仁が「三種の神器」を返し、翌日に徳仁が「三種の神器」を受け取ることで「代替わり」が実現。天皇の権威の源泉は「国民の総意」ではなく「三種の神器」にあることを示す。神話色・宗教色がきわめて強いこの儀式を、安倍政権は、皇位継承に伴う重要な儀式であることを理由として、国事行為に。「即位後朝見の儀」も国事行為に。

○秋の即位の儀式

- ・10/22 「即位礼正殿の儀」も、剣と璽（まが玉）が使われ、宗教色がきわめて強い。政府はこれも国事行為に。
- ・「即位礼正殿の儀」では、各国元首ら代表者の前で、一段高い高御座から新天皇が即位を公に宣言する。前回の「代替わり」では、首相が天皇を仰ぎ見て万歳を発声し、憲法が定める主権在民に反すると批判されたが、今回も踏襲する。
- ・11/14～15 の「大嘗祭」は、一連の儀式の中でも、ひときわ神秘性・宗教性が高い。天皇が即位した後、「皇祖や天神地祇に新穀を初めて自分で供え、国家と国民のために安寧と五穀豊穣を祈る」儀式。

○「代替わり」儀式は憲法違反

- ・これら「代替わり」の儀式は、大日本帝国憲法の手法である登^{とうぎ}極^{よくれい}令に倣って行われる。
- ・天皇を神秘性と宗教性に基づき、国民や政治権力の上に立つものとして権威づける。憲法の定める主権在民と政教分離の原則に真っ向から反する。

○巨額の費用

- ・「代替わり」全体にかかる費用は 166 億円。前回より 3 割も増。
- ・「大嘗祭」など国事行為でないものにも、皇室の公的活動に使われる公費「宮廷費」が使われる。これも、政教分離の原則に反する。
- ・「大嘗祭」の経費は、準備や関連儀式の費用も含め、2019 年度予算から 18 億 6600 万円、他年度の必要経費も含めた全体の想定額は 27 億 1900 万円に上る（前回は 22 億 4900 万円）。うち、儀式のために皇居の東御苑に建設する大嘗宮の設営関係費が、全体想定額で 23 億 9200 万円。儀式終了後に解体される。壮大なムダ使い。

(3) 安倍による象徴天皇制の利用に反対しよう

- ・「代替わり」を利用して、自らの支持率を上げるという安倍の思惑は、現在までのところ、成功していると見ざるをえない。
- ・これを、参院選またはダブル選、さらに改憲につなげさせないことが重要。秋まで続く「代替わり」ショーを安倍が政治利用することへの批判を強め、安倍の目論見を破綻させよう。
- ・「代替わり」についても根本的批判がほとんどなされず、世論の圧倒的多数が象徴天皇制支持という厳しい状況。即位の賀詞が全会一致で可決されるなど、国会内での批判もほとんどない。野党がこのような姿勢では、安倍の思うつぼ。
- ・それでも、5月1日前後には、東京都内をはじめ各地で、天皇制に反対する講演会や集会・デモ。運動団体や宗教団体から声明。
- ・運動に対する強硬な弾圧。「代替わり」を前に活動家を微罪で逮捕。デモに対しても参加者数をはるかに上回る機動隊を投入。いくらソフトに見えようとも、これが天皇制の正体。
- ・安倍による「代替わり」利用は、支配のための道具であるという、象徴天皇制の本質を示す。国家的「慶事」に浮かれることは、権力への批判精神を奪う。安倍政権の軍国主義、反動化の政策推進にとって好都合。
- ・中でも、9条改憲を絶対に許さないようにしよう。安倍は、国会での改憲論議が進まないことに業を煮やし、改憲を自民党参院選公約の重点項目に掲げている。選挙に勝利すれば、その勢いで改憲を一気に進めることを狙ってくるに違いない。「代替わり」を、改憲のために利用することを粘り強く批判しよう。